

経済・金融 フラッシュ

米6月ISM製造業指数は、50.9 と2ヵ月ぶりに50台を回復

経済研究部 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

米6月ISM製造業指数は50.9と2ヵ月ぶりに景況感の分かれ目となる50を回復、2009年6月以来4年ぶりの低水準となった前月から持ち直した。米経済が「財政の崖」合意による増税や強制歳出削減等の影響を強める中、製造業指数は3月以降下落を続け、5月には4年ぶりの低水準に落ち込んでいた。6月指数が持ち直したことで、更なる落ち込みを一旦回避し、緩やかながらも回復の動きを示唆している。ただ、雇用指数は、PMIの構成5指数の中で唯一低下し、2009年以来はじめて50台を割り込むなど、全般的に、製造業の雇用を加速するほどの強さは窺われない。

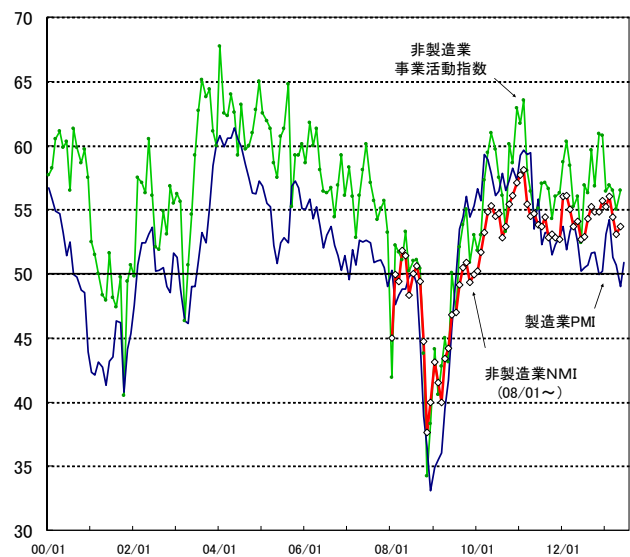
1、製造業PMIは50.9と2ヵ月ぶりの50台回復

企業のセンチメントを示す6月ISM(米供給管理協会)製造業指数(PMI)は50.9と前月(49.0)から1.9ポイント上昇、市場予想(50.5)を若干上回った。製造業の景況感の分かれ目となる50を2ヵ月ぶりに回復し、5月の2009年6月(45.8)以来となる4年ぶりの低水準から持ち直した。

PMIは、金融危機後の2008年12月に33.1とボトムを記録後、2009年8月に業況の分かれ目となる50を回復、その後39ヵ月連続で50台を保ったが昨年11月に49.9に下落、12月以降は50台を回復したが、前月には再び50を割り込んでいた(図表1)。

6月PMIの構成5指数を含めた内訳10指数を見ると、前月比で上昇したのは7指数で、残りの3指数は下落した。発表元のISMでは、過去のデータから見たPMIが示す経済全体の分かれ目(GDPのゼロ成長)は42.2であり、6月の水準(50.9)は実質GDPの年率2.7%に対応する水準としている。なお、3日発表予定の6月非製造業指数(NMI)の市場予想は54.0と5月(53.7)から若干の上昇を見込んでいる。

(図表1) ISM指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

(各指数別の動向)

2、構成5指数では、雇用を除き4指数が上昇

PMIの構成5指数(新規受注、生産、雇用、入荷遅延、在庫)では、生産が53.4と前月比4.8ポイント、新規受注が51.9と同3.1ポイント、それぞれ急上昇を見せた半面、雇用指数は48.7と同▲1.4ポイント低下、構成5指数の中で唯一低下した。残りの2指数は、入荷遅延が50.0(同+1.3)、在庫指数が50.5(同+1.5)と上昇した。

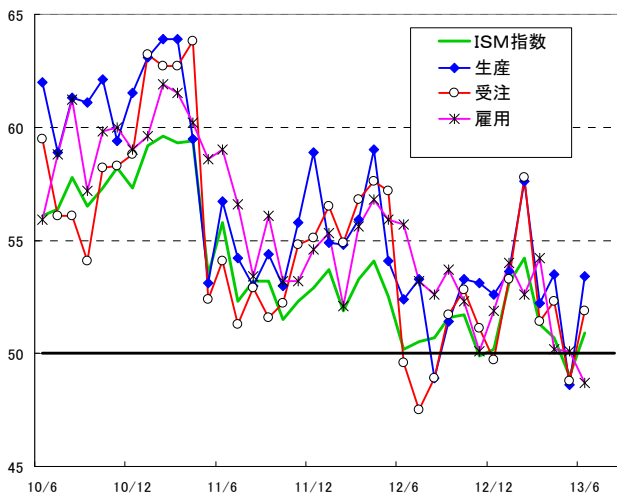
先行指標となる新規受注をはじめ、生産指数の上昇が製造業の持ち直しを示唆している。商務省の耐久財受注でも、3月の急低下後、4・5月と連月で持ち直している。雇用指数が下落したこともあって、それほど強さは無いものの、緩やかながらも製造業の事業活動の拡大が示唆された形である。

なお、雇用指数は48.7へと下落したが、50を割り込んだのは、リセッション直後の2009年9月(47.8)以来であり、製造業では積極的な雇用増の状況には無いようである。なお、5日発表の労働省の雇用統計の市場予想は、前月比16.5万人増、うち製造業では横ばいの予想となっている。

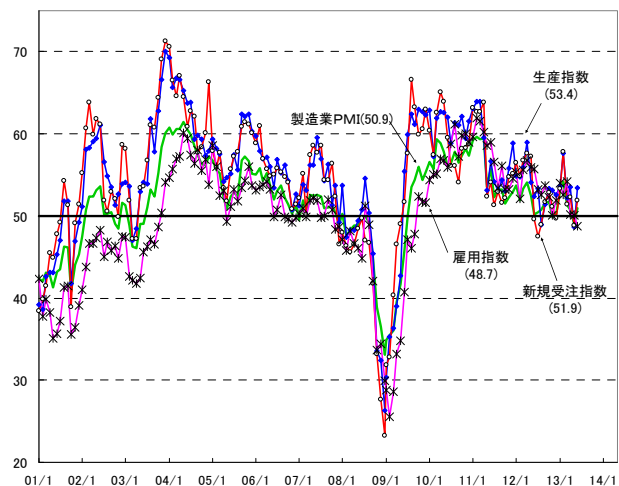
構成指数以外の5指数の前月比は、受注残指数(46.5)が▲1.5ポイント、顧客在庫指数(45.0)が▲1.0ポイントと下落、半面、輸出指数(54.5)が+3.5ポイント、輸入指数(56.0)が+1.5ポイントと上昇、価格指数(52.5)も+3.0ポイントの上昇となった。指数の水準としては、輸入、輸出受注が50台半ばへと上昇し、堅調な推移を見せている。

米国経済指標は、全般的に「財政の崖」後の増税・歳出削減の影響により、年頭をピークに減速が窺われるものが多く見られ、ISM製造業指数でも、2月をピークに3ヵ月連続で低下、5月には4年ぶりの低水準に落ち込んでいた。6月指数の回復により製造業の持ち直しが示唆されたものの、FRBの資産購入額の早期縮小の可能性を高めるほどの強さは窺われない。

(図表2) PMIと主要構成指数の推移(短期)



(図表3) PMIと主要構成指数の推移(長期)



注：月別、()内の数値は2013年6月値

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。